

LUXMAN

MONAURAL POWER AMPLIFIER

B-1000f

B-1000f



LUXMAN CORPORATION

表現者—— 感動を生み出す、

ハイエンド・オーディオコンポーネントとしてまとうべき全ての可能性を、一切の妥協を排して突き



類いまれなる能力を持つモノ。

詰めた。ラックスマン創業80周年記念、新フラグシップモデル — モノラルパワーアンプ B-1000f。



表現者—私は「力強く」伝える。



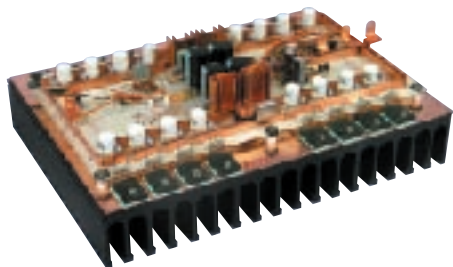
邦楽のなかでも、洗練された粋な流儀として知られる「清元」。
かたや、自由な感性で新たな日本音楽を創作する「大和楽」。
ジャンルやスタイルに違いはあっても、
聴衆の心を捉えるのが、“真に力のある音”であることに変わりはない。
もちろん、ただ強く弦を弾けばいいというわけではない。
小手先の技だけで生み出せるものでもない。
必要なのは、この音を伝えたい——という力強い意志。
そんな“魂”を持つものの内面からこそ、沸々とわき出してくるのだ。

三味線奏者 清元美多郎

いかなる状況においても、再生する音楽のダイナミズムを損なうことのない強大なパワーはB-1000fの大きな特長。贅沢な音楽再生を楽しむことができます。

4×4 (フォーバイフォー) アウトプット構成

3段ダーリントンで構成された4パラプッシュプル電流増幅回路を、全体で4モジュール使用し、強力なドライブ回路を実現しました。むやみにファイナル段の平行数を増やしたのでは、入力容量 (Cob) の影響で、回路全体の歪/高域特性などを犠牲にしてしまう場合がありますが、B-1000fでは、優れた高域特性を持った初段部の性能を最大限に生かすため、最適な平行数として4パラ×4モジュールをチョイス。これにより、瞬時の高い電流供給能力を可能としました。



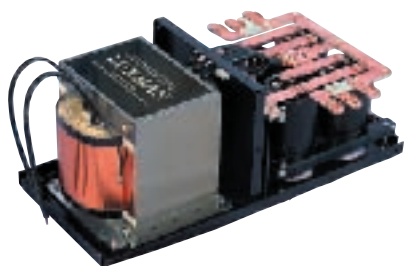
※ODNF出力を2系統として、ダーリントンの1段目をドライブ、その出力をさらに2系統として2段目をドライブする方式で4x4を実現しています(詳しくは背表紙のブロック図をご参照ください)。

2,000W (1Ω) のパワーリアリティ

あらゆる負荷状況にリアに追従する動的なパワーは、スピーカーの特性を引き出すために不可欠なものです。ラックスマンでは、そのために必要とされる力を十分にゆとりを持って供給することが、パワーアンプの重要な役割であると考えています。B-1000fでは、さまざまなスピーカーを自在に駆動する絶対的なパワーを実現するべく、8Ω負荷時に定格出力250Wというゲイン設定に対し、1Ω負荷時に瞬時最大2,000Wとなる理論値どおりの完全なパワーリアリティを実現。どのような負荷条件においても、全音量域で再生する音楽のダイナミズムを一切スポイルすることのない、贅沢な音楽再生を楽しむことが可能となっています。

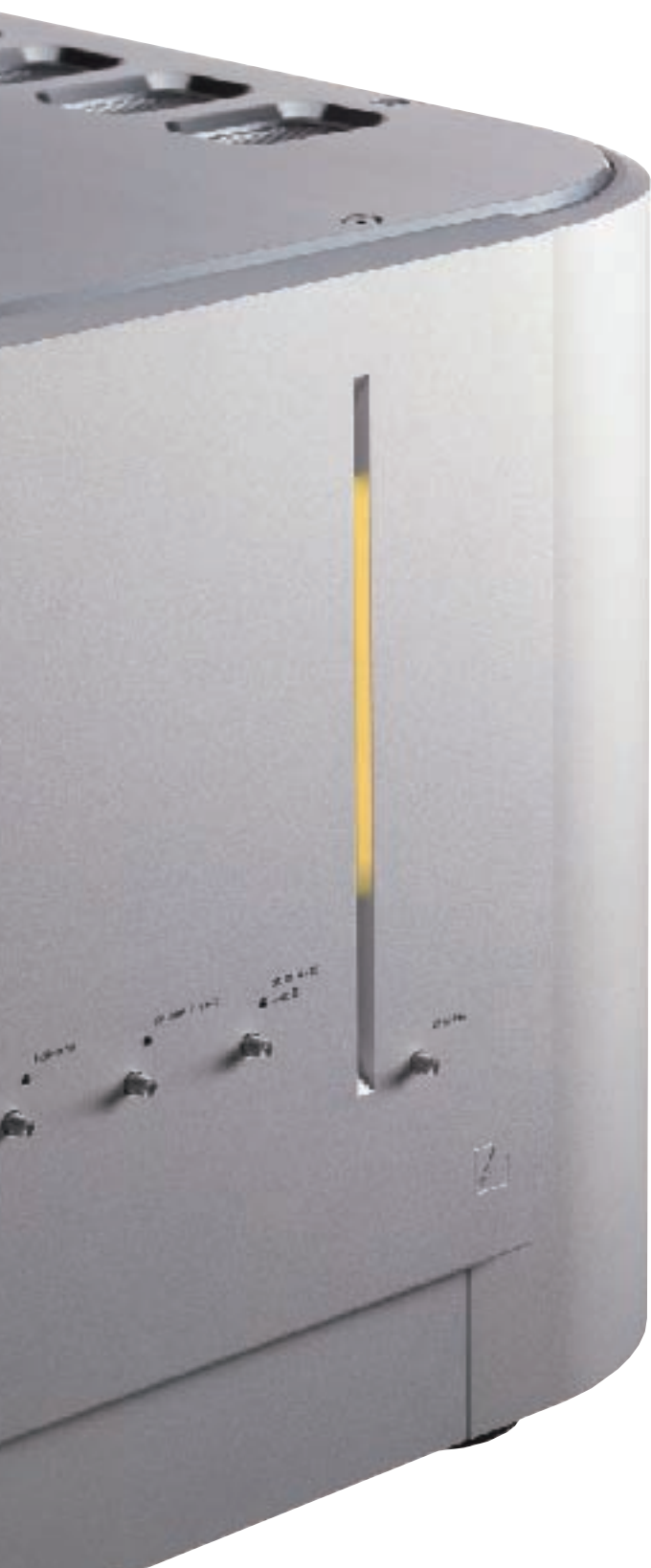
平型銅巻線のスーパーレギュレーショントランス

電源部には、2mm厚の平型銅巻線を直出しした、高結合低損失のEI型スーパーレギュレーショントランスを搭載。平型の巻線を採用することで損失空間がなくなり、線間容量の低下、結合力の上昇、磁界の安定化など、かつてないほどの高スペックトランスが実現しました。さらに、さまざまな負荷変動にも微動だにしない強力なレギュレーション性能を誇り、B-1000fのパーソナリティでもある圧倒的なパワー感を実現するための源流となってシステム全体に貢献しています。容量は定格2,400VA、最大4,800VAのパワーステージ専用トランスをはじめ、用途に合わせた計3つのトランスで構成されています。



必要だから装備した、1Ω 2000Wの実力。



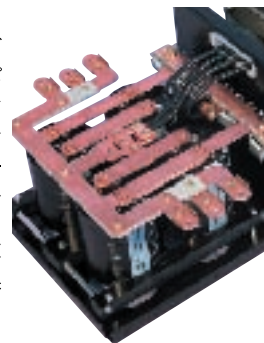


本物を生む解像力、3Dスターサーキット。

音楽信号の純度を限りなく高く保ち続けるために必要だったもの。それは、回路配線から筐体構造にいたるまで、妥協を許さない設計思想でした。

OFCバスバーで構成された3Dスターサーキット

入力信号を正確に伝送するためには、各回路の基準点を明確化することが重要です。ラックスマンではアースポイントに常に一定化させる独創のパターンテクノロジー「スターサーキット」を全製品に採用してきましたが、B-1000fではこの思想を3次元に展開した「3Dスターサーキット」を新たに開発。パワー段電源ブロックを全て2mm厚のOFCバスバーによる放射状の配線構造により3次元化することで、強力な正確な電源供給を実現しています。



さらに、OFCバスバーは電源から出力段までの主要ラインをハードワイヤリングで直結。瞬時的な大電流が必要な状況でも、インピーダンスの周波数変化が極小化され、音楽の立ち上がりや大音量のクライマックスを圧倒的なパワー感で表現することが可能となりました。

ラックスマンの伝統、ラウンド配線パターン

B-1000fでは、基板内における信号ラインの幅を一定に保ち、必要に応じて描かれる滑らかな曲線がスムーズな伝送経路を構成するよう細かな配慮をしています。これにより常に音楽信号の電流密度が一定化し、音の詰まりやリングングの発生しない音楽再生と、ストレスのない信号伝送によるのびやかな音楽表現を獲得しました。

レジスト被覆を排したピールコート金メッキ基板

ラックスマンは、基板上の信号ラインを被覆するレジストが音に少なからず影響を及ぼしていることに着眼。そのレジストを完全撤廃したピールコート金メッキ基板を全ての回路に採用しました。そして銅箔には100 μ m厚を選択。パターンインピーダンスを低減した周波数劣化の少ない信号伝送を実現しました。



迷走電流を制御するループレスシャーシ構造

B-1000fでは、シャーシ電流によるアースインピーダンスの上昇や発生磁界の影響を隔絶するループレスシャーシ構造を採用。音質に悪影響を及ぼす不要振動の徹底排除とノイズ対策に、ラックスマンが長年培った筐体設計のノウハウの全てを注いでいます。



表現者—私は「繊細に」彩る。



優雅さと華やかさを誇る日本の民族衣装「きもの」。
その美しさを支えるのは、伝統に裏付けされた細やかな心遣いだ。
たとえば、織りや染めによって生み出される美しい色や柄。
あるいは、組み合わせによって互いを引き立て合う帯や羽織。
季節や場所にあわせて、各々がその個性を主張しながら、
どれもが突出しすぎることなく、絶妙な調和を図る。
そんな意識していなければ気づかないほどの繊細な気遣いの積み重ねが、
纏う人を美しく彩り、その個性や人間性をも引き立てるのだ。

きものコーディネーター 江木良彦

表現者—私は「豊かに」刻む。



あらゆる芸術は、分解と再生の上に成り立っている。
だが、題材をただあるがままに再現したのでは、芸術作品にはなりえない。
いつの時代も、そしてどんな分野でも、
永く人々に愛される作品を創造しうるのは、
質感や量感ばかりか、そこに漂う空気までつかみ取る鋭い感性。
さらには、目には見えない情緒さえも、生き生きと表す豊かな表現力。
それなくして、ブロンズや石の塊に、
みずみずしい永遠の生命を吹き込むことなどできないのだ。

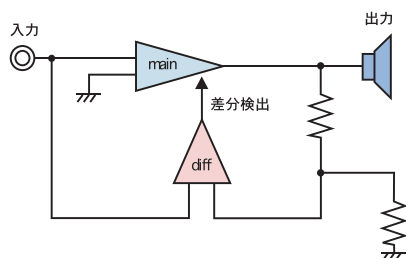
彫刻家 安藤 士

新たなテクノロジーとこだわり抜いたカスタムパーツが、惜しむことなく投入されたB-1000f。かつてないほど自然に、豊かに、圧倒的な音楽表現を生み出します。

高音質帰還回路ODNF最新バージョン2.3

高次元の音楽再現を求め、信号と歪の関係を根本から見直した次世代回路がODNF (Only Distortion Negative Feedback) です。ラックスマンはまず、従来の負帰還回路では避けられなかった位相補正を必要としない超広帯域/ハイスルーレート/低歪率の増幅回路を開発。そしてNFBの在り方に着目し、出力から歪成分だけを増幅回路の最終段へフィードバックするという革新的な帰還回路を考案しました。これによりNFB制御を音楽信号から切り離すことが可能となり、初期スルーレートの速さと超広帯域を実現しました。

B-1000fではこのODNF回路を出力構成に合わせてモジュール接続した最新バージョン2.3を搭載しています。



音楽に追従する慣性制御のハイナナーシャ電源

従来のレギュレーター電源は、多量のNFBで電源部を制御し、インピーダンスを低くすることで電圧変動を見かけ上小さくするものですが、音楽と制御の時間差により、出力が絶えず小刻みに揺れている結果を生んでいます。

そこでB-1000fでは、電源トランスのレギュレーションを高め、大容量で良質のコンデンサーにより優れた瞬時供給能力を得るという斬新な手法により、細かく不自然な電圧変動をゆったりとした変化に変え、自然な電源出力を実現しました。この思想が、自重により安定動作を得る慣性の力になぞらえられたハイナナーシャ電源です。

音質への妥協のないこだわり、オリジナルカスタムパーツ

独自開発されたカスタムパーツの全面投入は、あらゆる制約を排して開発されたフラグシップモデルの特権です。B-1000fでは電源トランスやブロックコンデンサーにとどまらず、抵抗やコンデンサーなどのパッシブパーツ、OFCバスバーや6Nケーブルなどの配線パーツに至るまで、高度な技術と感性でこだわりぬいたカスタムパーツ群を大量に投入しています。

信号遮断スイッチ付きイルミネーションメーター

B-1000fでは、フロントパネルに開けられたメータースリットを上品にライトアップし、出力レベルをステップ表示するメーターを装備しています。専用のオフスイッチは、内部のドライブ回路への信号を遮断してメーターを消灯し、回路への負荷変動の影響が発生しない音質的に最も優れた方式を採用しています。



表現力はネクストステージへ、ODNF Ver. 2.3



ラックスマン 80周年にあたって

日本でラジオ放送が始まって80年目にあたる2005年。それはラックスマンにとっても、創業80周年を迎える記念すべき年となります。

1925年6月、ラックスマンは、大阪で絵画額縁輸入商・錦水堂のラジオ部として創業しました。ラジオ受信機がまだ貴重品だった当時、店頭で陳列されたその魅惑的な音は往来を行き交う人々の注目を集め、黎明期のラジオや電蓄、自社開発の部品等を紹介した日本で初めてのラジオ解説書「錦水堂ラヂオブック」は14版を重ねるベストセラーとなりました。常に時代を先取りし、切り開いていくというラックスマンの伝統は、このときから始まったのです。

以来80年間、この伝統は変わることなく受け継がれてきました。オーディオ機器が、ラジオからステレオレコード、カセットデッキ、CDへと進化を遂げる間も、私どもは常に日本のオーディオ文化を牽引する存在でありたいと考え、業界をリードする回路技術や、新たな発想による意匠デザインを提案し続けてきたのです。

もうひとつ、私どもが創業以来貫き通してきた伝統があります。それは「オーディオは趣味」というメーカーとしての根源的なフィロソフィーです。

オーディオは単なる実用品ではなく、文化的な生活を送るための重要なツールである——と私どもは考えています。だからこそ、工業製品としての数値上の性能特性だけでなく、測定機器では計測できない音楽の動的な表現力や、操作部などの触れた感触にまでこだわった機器のデザインなど、モノとしてのハード/ソフト両面における総合的な完成度が求められるのです。

80周年記念モデルに込めた思い

振り返ってみれば、この10年間、オーディオ機器は目覚ましい進歩を遂げました。デジタル技術の急速な発展で音楽フォーマットは多様化し、またハードウェアの多機能化が進んだことで、機能重視の実用的な製品が主流となりつつありますが、それは裏返せば、オーディオ機器が持つ文明的な価値観が希薄化していく時代であった——ともいえます。

そんな時代だからこそ、私どもはもう一度、原点に回帰すべきではないかと考えます。80周年という記念すべき節目に、これまで積み重ねてきた「音」への関わりとこだわりを思う存分注ぎ込む。そして、オーディオの文化的財産としての価値を改めて確認する——。モノラルパワーアンプ「B-1000F」は、まさにそんな思いを込めた究極のフラグシップモデルとして、みなさまにお贈りする製品なのです。





「B-10」を超える名機を目指して

その性能の「基準」となったのは、かつて私どもが手がけた一台のパワーアンプでした。

今から10年前、創業70周年を迎えたラックスマンは、記念モデルとしてモノラルパワーアンプ「B-10」をリリースしました。当時、最高の技術とノウハウを結集した「B-10」は、極めて高品位なオーディオコンポーネントとして高い評価をいただき、ラックスマンを代表する名機として、今でも多くのオーディオファンに語り継がれています。のちに「B-10」の技術をベースにした数々の製品が誕生したことも、その優れた先進性とオーディオファンの熱い支持の証といえるでしょう。

創業80周年記念モデル「B-1000f」は、その「B-10」を超える物理的性能を実現し、ラックスマンの新しい“顔”となることを前提に開発された製品です。

そもそも、パワーアンプとしての理想的なコンストラクションを実現するという「B-1000f」の基本構想は、10数年前に一度、開発内部で検討されたものでした。しかしながら、それを現実のものとするためのあまりにも大規模な物量と、使用するデバイスに要求される厳しい条件は、当時の製品ラインアップから、大きくかけ離れており、実際に製品化することは断念せざるを得なかったのです。

しかし、創業80周年記念として、新たなフラグシップモデルを開発することが決定し、全社員の望む「考える技術とノウハウを、妥協をせずに全て投入したアンプを創ろう」という大方針のもと、かつての構想をベースに改めて現時点の技術におけるパワーアンプの理想を追求することになったのです。

ラックスマンの歴史と未来の象徴

その開発コンセプトは、ラックスマンの技術の集大成として、物量を投じることで得られるクオリティを極限まで追求する——という極めてシンプルなものでした。高い音質を生み出すための最善の技術、最高の部品、最適な素材を惜しみなく贅沢に注ぎ込み、全ての回路や構成物がよい音を出すために最大限に働いてくれる環境を用意する。それによって、増幅器としてのどのステージにおいても妥協のない、理想的な動作を実現する——。極めて基本に忠実なその考えこそ、ラックスマンがこれまで80年間にわたって追究してきた高音質化の「原点」だったのです。

こうして誕生した「B-1000f」は、ラックスマンの80年にも及ぶ歴史の集大成として、また今後のラックスマンの未来を象徴するフラグシップモデルとして、かつてないほどに音楽性豊かな自信作に仕上がりました。その圧倒的な音楽表現を、存分にご堪能いただければ幸いです。



B-1000f SPECIFICATIONS

連続実効出力	250W / 8Ω、500W / 4Ω	ダンピングファクター	480 / 8Ω
最大出力	1,000W / 2Ω、2,000W / 1Ω	付属装置	入力切替スイッチ、バランス位相切替スイッチ、アッテネータースイッチ (-4dB)、レベルメーター (オフスイッチ付)
入力感度	1V / 250W (8Ω)	付属品	電源ケーブル、専用リモートケーブル
入力インピーダンス	コアキシャル 51KΩ、バランス 67KΩ	消費電力	439W (電気用品安全法) / 232W (無信号時) / 0.7W (スタンバイ時)
全高調波歪率	0.007% / 1KHz 250W (8Ω)	最大外形寸法	428 (W) × 295 (H) × 592 (D) mm
周波数特性	DC~150KHz (+0、-3dB)	重量	64.0Kg
S/N比	118dB (IHF-A)		

新素材銅パーアロイ製RCA入力端子

入力端子は、オーディオ機器の音質を左右する重要な役割を担っています。B-1000fでは、銅と同等の導電率と真鍮の硬度を併せ持った新素材銅パーアロイを使用した、オリジナルのRCA端子を装着しました。また、スピーカー端子は、Yラグなどの端末加工を施した高級ケーブルとも、確実に強固な接触を実現する大型タイプを2組装着。高品位なスピーカー再生に不可欠なバイワイヤリング接続にも対応しています。

他機器との電源連動に便利なりモート端子

専用リモート出力端子のあるコントロールアンプ(ラックスマンC-10、C-9、C-8fなど)と専用リモートケーブルで接続すれば、コントロールアンプの電源スイッチに連動して、本機をON/OFFさせることが可能になります。また、本機のリモート出力端子を併用することで、もう1台のB-1000fとの電源連動も可能です。

アニール処理されたACインレット

電源の入り口であるACインレットは、結晶方向を揃えるための超低温アニール処理をした電極に、さらに金メッキを施した特別仕様。電流を一切妨げることのない、スムーズな電源伝送を実現しています。

電源極性を統一するラインフェイズセンサー

B-1000fに接続されるAC100V交流電源の極性をひと目で検知できるよう、ラックスマン独自のラインフェイズセンサーを装備。システム全体の電源極性を統一することで、音質の一層の向上を図ることが可能です。

フラグシップにふさわしい、美しく精緻な意匠

外装は全て、丹念な仕上げを施されたアルミパネルで構成。四隅がラウンドされたプリミティブな形状とソリッドなたたずまいが、B-1000fの持つ底力を静かに主張します。

電源ケーブルは新開発JPA-20000

あらゆる音楽の場面で、常に必要十分な電源エネルギーを供給する役割を担うのが、B-1000fのために新規開発された電源ケーブルJPA-20000です。強大な規模を誇るB-1000fの出力性能を支えるこのオリジナルケーブルは、付属品のグレードをはるかに超えた贅沢な仕様で標準添付されます。



クオリティに対する自信の証、長期5年保証

B-1000fはシステムの中核として、長期にわたってご愛用いただける製品です。ラックスマンでは、ユーザーの方々のオーディオライフをサポートし、安心してお使いいただけるよう、通常製品では2年のところ、当製品は5年保証とさせていただきます。

B-1000f BLOCK DIAGRAM

